

第 51 回 全国審判技術研修員講習会での新たな指導事項

岐阜市軟式野球連盟 審判部

1. バッターボックスルールを選手に理解してもらう

【目的】

- ・ゲームのスピードアップ(20 秒ルールも 1 回目からペナルティをとることになった)

【ケース】

- ・打者は、バッターボックスルールを理解していないケースが多く、投球後、不用意にバッターボックスを離れるケースが散見される。

【処置】

- ・「タイム」をかけ、両手人差し指を自身の顔の前で、四角(バッターボックス)を描いて、「バッターボックスルール」「警告 1 回目」と注意をする。
- ・警告は 1 試合での積算になり、3 回目の違反を犯した場合は、ボールデットにし「ストライク」とコールし、カウント表示を行う。2 ストライク後の場合は、三振。

【ゲームコントロール】

- ・バッターボックスルールに抵触する場合は、思い切って本ルールの適用をする。結果的に、チームへの警告の意味もある。

→クルーで塁審もメモをとりながら対応すること。

<バッターボックスルール> 【規則書5. 04(b)(4) 必携P. 82】

- ・打者は打撃姿勢をとった後は、次の場合を除き、少なくとも一方の足をバッターボックス内に置いていなければならない。この場合は、打者はバッターボックスを離れてもよいが、“ホームプレートを囲む土の部分”を出てはならない。

- (i) 打者が投球に対してバットを振った場合
- (ii) チェックスイングが塁審にリクエストされた場合
- (iii) 打者が投球を避けてバランスを崩すか、バッターボックスの外に出ざるを得なかった場合
- (iv) いずれかのチームのメンバーが「タイム」を要求し認められた場合
- (v) 守備側のプレイヤーがいずれかの塁で走者に対するプレイを企てた場合
- (vi) 打者がバントをするふりをした場合
- (vii) 暴投または捕逸が発生した場合
- (viii) 投手がボールを受け取った後マウンドの土の部分離れた場合
- (ix) 捕手が守備のためのシグナルを送るためにキャッチャーボックスを離れた場合

2. プレイが重なる(クロス・オーバー)ケースで、打者と打球、走者と野手が接触していないと判断した場合

【目的】

- ・審判員がプレイをしっかり見て問題ないと判断した。不要なアピールを無くす。

【ケース】

- ・走者1塁でセカンドゴロ、1塁走者は打球をギリギリで避けるような場合

【処置】

- ・走者が打球に触れていない。もしくは走者と打者が接触していないと判断した場合は、ノーボイスでセーフ(ナッシング)のジェスチャーを入れておく。

3. ハーフスイング時の

- ・全軟連指導のハーフスイングの基準(バットの先端が打者の中心を超える)は良いが、バントの場合、打者の中心を超えない場合もあるが、球審がバントを試みたと判断したら、ストライクであり、この時の発声がスイングはおかしい。

【コール】

- ・ハーフスイングやバントの空振りについて、打者をポイントし「Yes!! He went!!」ストライクのジェスチャーをする。(打ちにいったと判断)
- ・打ちに行っていないと判断したときは、「Ball!! No he didn't go」と発声する。
- カテゴリーに応じて使っていく。(学童、少年、一般、リーグ、トーナメント…)

4. ラインアウトのジェスチャー

- ・ラインアウトの際、ラインアウトの地点を右手で指さし、「Line out runner out」としている。また、タッグされた場合は、左手で「On the tag」と指さし、右手で「He is out」とジェスチャーを入れるが、右か左かの違いで観衆にはよく伝わらない。
- ・ラインアウトの際、オフザバッグと同じジェスチャーを用い、「Out of the base path he is out!」の方が分かりやすい

5. 4人制メカニクスの選択肢(最近のトレンド)

- a) 走者1塁 or 走者1・3塁での2塁塁審の立ち位置
 - ・1・2塁の延長上、2塁キャンバスから3m程度の位置
- b) 走者3塁での2塁塁審の立ち位置
 - ・ショートの前肩後方に位置し、3塁走者の帰塁プレイに備える
- c) 走者2・3塁での2塁塁審の立ち位置
 - ・ショートの前肩後方(2塁寄り)に位置する
 - ・2塁でのプレイにも対応する必要がある

→2塁塁審が外位置になるので、3分割になることはクルーミーティングで確認すること

→前進守備で、2塁塁審の立ち位置が守備の妨げになる可能性がある場合に活用可能

6. その他

- ・投手の投球姿勢において、軸足を投手板に触れていれば、どこを踏んでもいいと説明しているが、踵が投手板に触れていて、リリースの際、つま先は投手板から離れるので、イリーガルピッチとしてたが、**正規に触れている投手がリリースするときは、実際にはプレートから離れているため問題ない。**との見解が加えられた。